

## 本校児童の学力・生活の実態（基礎・基本定着状況調査 全国学力・学習状況調査より）

今年度も6月に県内の小学5年生（国語・算数）・中学2年生（国語・数学・英語）を対象にした基礎・基本の定着状況調査が、4月には全国の小学6年生と中学3年生を対象とした学力調査が行われました。8月末にその集計結果が発表されました。どちらの結果を見ても、本校の児童の学力は全体的には定着していると言えます。（県と全国の設定問の形式は違い、全国はAとBの2種類があります。Aは知識に関する問題、Bは知識や技能を活用する問題です。）

しかし詳しく見ていくと、学力・生活のいずれの面においても課題があります。そこで、調査結果を整理・分析し、次のように改善の取組み計画を立てました。

### ＜国語＞（正答率の比較 %）

基礎・基本定着状況調査（5年）	国語	本校88.3	町82.9	県75.0
全国学力・学習状況調査（6年）	国語A（知識問題）	本校73.5	県72.9	全国69.9
	国語B（活用問題）	本校52.9	県53.8	全国50.5

#### 課題

- 習った漢字を読む。（本校 27.3 県 65.7）
- 文中に当てはめる適切な語句を選択する。（本校 54.5 県 45.2）
- 接続語を使って一文を二分に分けて書く。（本校 0 全国 14.7）

#### 改善計画

- 週1時間の漢字学習時間を確保し、その中で新出漢字の筆順・読み・部首・使い方などを調べさせ、ワークシートで定着を図る。また、学習した漢字を活用する場面を増やしていく。
- 意味の分からない語句については、辞書を使って意味調べをする習慣をつけさせる。また、毎週一冊以上の本を借りて読む活動を全校で取り組み、言葉の数を増やしていく。
- 説明文の学習を通して接続語の意味と使い方を指導し、作文や日記活動の場で活用・定着を図る。

### ＜算数＞（正答率の比較 %）

基礎・基本定着状況調査（5年）	算数	本校88.7	町87.6	県79.8
全国学力・学習状況調査（6年）	算数A（知識問題）	本校86.9	県81.3	全国78.7
	算数B（活用問題）	本校63.0	県56.6	全国54.8

#### 課題

- 長さの単位の関係を理解している。（本校 59.1 県 79.6）
- グラフから、数量の変化の様子をとらえることができる。（本校 64.7 全国 72.8）

#### 改善計画

- 学習したことを、生活と関連付けたり活用する場を設けたりして、長さの感覚を養っていく。
- 算数科の学習でさまざまなグラフを取り上げ、グラフのどの部分に着目すればよいかの指導を重ねていく。さらに、社会科や理科などの学習においても積極的にグラフを読むとる活動を取り入れる。

### ＜生活・学習に関する意識・実態と取組み＞

#### 改善したい点

- 毎日同じ時間に起床していない児童が約1割いる。
- 平日に家や図書館で読書する時間が30分未満の児童が58%いる。
- 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くのが難しいと思う児童が76.4%いる。
- 算数の時間に学習したことを、普段の生活の中で活用しようと思わない児童が70.6%いる。

#### 取組み

- 「早寝早起き週間」の取組みを一層強化し、家庭と協力して取り組む。
- 児童の毎日の家庭学習に本読みや読書を組み入れ、読書の楽しさを味わわせていく。また、毎週金曜日を全員必ず図書を借りる日とし、家庭での読書時間を増やすことで、読書の習慣化を目指す。
- 教科の学習で書く活動を多く取り入れるとともに、日々の日記指導を通して作文することに慣れさせる取組みを行う。
- 算数の授業で、身近な生活と関連ある素材を教材として取り上げ、生活とのつながりを意識した指導を行う。